

# 中右先生の思い出

麗澤大学外国語学部教授 渡邊 信



シンポジウム「明日の言語研究に向けて」で基調講演『**発話主体の主観と語彙化・文化化—我が言語学的半生を顧みて—**』をされる中右実教授(本学ホームページより転載)

麗澤大学外国語学部及び大学院言語教育研究科の中右実教授が、平成 23 年 3 月末日を以って御退職なさいました。

中右先生に初めてお目にかかったのはもう 25 年以上も前、私がまだ 18 歳の頃でした。筑波大学人文学類に入学し、大学生として初めて出席した『現代英語講読』の恐い先生(笑)が中右先生でした。あの時以来、学者としてまた人として中右先生に憧れ、時に叱られ、時に暖かく励まされ(中右先生門下の他の多くの先輩方や後輩の皆様方と同様に)今日まで導いて頂きました。今こうして先生の御退職を報告するにあたり、時間の経過の残酷とも言える早さに驚きつつも、改めて先生から頂いた学恩に心から深く深く感謝の意を表したいと思います。

中右先生は 2004 年 3 月に筑波大学文芸・言語学系を御退官され、同年 4 月に本学外国語学部英語学科教授(大学院言語教育研究科比較文明文化専攻

教授兼任)として着任されました。外国語学部で英語学の教育に携わる傍ら、修士課程英語教育専攻(2006年4月開設)の設立に大変御尽力下さいました。

米国マサチューセッツ工科大学(MIT)留学中はノーム・チョムスキー博士に師事し、1971年に博士号を取得、筑波大学文芸・言語学系助教授に就任され生成文法を最先端で研究なさいました。その後、徐々に興味の対象を統語論から意味論に移し、その結果は<階層意味論>として代表作『認知意味論の原理』(1994、大修館書店)に結実しました。

最近では英語の前置詞の意味など特に空間認知に関する言語類型論に取り組んでおられます。言語を比較する尺度を普遍的な意味概念に求め、それが個別言語の語彙・構文現象の中にどう反映されているかを観察することで言語間の類型的な異同を追求されていらっしゃる。

先生の御退職を記念し、麗澤大学言語研究センター主催でシンポジウム『明日の言語研究に向けて』を平成23年2月12日(土)午後1時から6時まで、廣池千九郎記念講堂において開催いたしました。分不相応ながらシンポジウム司会者という大役を仰せつかり、私としては一生の思い出になりました。シンポジウム後は、ささやかながらお別れパーティーをキャンパスプラザで開き、始終とても楽しそうにいらっしゃった中右先生の優しい笑顔が印象に残っています。あいにくの雪にもかかわらず全国から中右先生の門下生やゆかりのある方々が100名近くもお運び下さり、どちらも大盛会となりました。

麗澤大学御在職の7年間、中右先生は御体調を何度か大きく崩されました。研究・教育にかかわる全てのことに常に全力投球される先生には大きなストレスがあったのだらうと思います。これからはようやく心静かに研究・執筆活動に専念して頂けます。中右先生の大ファンとして先生の論文・著作を心待ちにしております。